さんにち NIE ワークシート　　山梨日日新聞

年　　組　名前：

山梨の友〝目覚め〟の契機

小畑茂雄・県立博物館学芸員

日本の資本主義の父と称される渋沢栄一には、山梨県出身の親友がいた。官営の郵便事業に力を尽くした甲府市出身の杉浦譲（1835～77年）だ。山梨県立博物館学芸員の小畑茂雄さんは、渋沢が持っていた西洋人へのイメージに杉浦が与えた影響に着目する。

渋沢は杉浦との交流を通じ、偏見があった西洋人への見方を変え、民間の力で日本の近代化を推し進める〝目覚め〟につながった。県内では身延線の前身に当たる富士身延鉄道の建設に協力。甲州財閥との交流も深かった。

渋沢と杉浦の出会いは67年のパリ万博だった。幕臣だった2人は江戸幕府最後の将軍徳川慶喜の弟昭武をトップとする使節団に加わり、船中で親睦を深めた。「竜門雑誌第440号」で、杉浦のことを「杉浦愛蔵（譲）と云ふ親友」と呼んでいることからも、2人の関係の深さがうかがい知れる。

同雑誌第509号によると、渋沢は渡仏前、西洋人を「無茶」「乱暴」と表現。しかし、フランスへ向かう船中で杉浦らから「西洋人を殊更に敵視すべきでない」と聞かされ、考えは変わる。雑誌には「仁義道徳が西洋人にないと信じて居たのは過りであった」と渋沢の思いが記されている。小畑さんは「渋沢が日本の近代化をリードするようになる中で、西洋への見方を変えた杉浦の存在は大きかったのではないか」とみる。

渋沢は山梨の近代化にも貢献した。富士身延鉄道の建設がその代表例だ。当初は富士―身延間での開業が予定されていたが、渋沢は産業開発のために甲府まで結ぶよう主張。「渋沢の後ろ盾によって、甲府までの事業化が確実なものになった」（小畑さん）

渋沢は若尾逸平、根津嘉一郎、早川徳次ら甲州財閥との交流も記録に残る。小畑さんは「（江戸時代に幕府直轄地だった）山梨は民間の活力、行動力が突出した地域」と指摘。「実業界に転身した後に、数々の企業を興したことが生涯の業績となった渋沢と、思想的な下地が近かったのだろう」との見方を示す。

〈植田裕作〉

（2024 年 1 月 1 日付 山梨日日新聞 15 面）

【渋沢栄一】　1840年、現在の埼玉県深谷市生まれ。日本で初めての商業銀行「第一国立銀行」の創立に関わり、頭取を務めた。1931年に91歳で死去。

問1 渋沢栄一の肖像画は、今年7月3日から発行される何円札の新紙幣に使われますか。

……

問2 杉浦譲は、フランスへ向かう船中で、渋沢栄一に、どのような言葉を掛けましたか。

……

問3 渋沢栄一の主張によって富士身延鉄道の計画は、なにが変わりましたか。

……

問4 杉浦譲以外で、渋沢栄一と交流があった山梨県人を、記事の中から3人書き出してください。

・……　・……　・……

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.